

14 乳歯Ⅱ級コンポジットレジン充填の高洞形態について

○浜野 良彦、下飛田 道子、山口 昭一、小田 博

オクト・ピド・グループ 福岡市

第1および第2乳臼歯間に存在する齲蝕の治療方法として永い間にわたり、アマルガム充填あるいはメタルインレーといった歯冠修復法が用いられてきている。近年、修復用材料の進歩に伴い、審美性にすぐれたコンポジットレジンを用いるいわゆるⅡ級コンポジットレジン充填法が、小児歯科臨床において一般的に用いられるようになってきた。しかしながら、現在行なわれているⅡ級コンポジットレジン充填法の高洞形態は、従来のアマルガム用高洞を基本としているため、コンポジットレジンの持つ物理的特性を生かした高洞形態とはいえず、予後の良否に係わるいろいろな問題点が生じている。

今回、日頃臨床で行なっているⅡ級コンポジットレジン充填の高洞形態について考察を加えるとともに、特に第1乳臼歯遠心面および第2乳臼歯近心面の両者に存在する齲蝕に対する高洞形成法について臨床的工夫点をまじえて報告する。

- 1) 対象：咬翼法レントゲン診査の結果、検出された第1および第2乳臼歯間に存在する隣接面齲蝕
- 2) 使用充填材：臼歯部用光重合型コンポジットレジン（S社製）